



「みみごち」の拡大模型を持つ松本社長(左)と小田原部長(右)



自社製のミニ模型付きハンガーディスプレイ



左から「魔法のつめけずり」「したつつみ」「魔法ミガキくるりん」「みみごち」



社員の皆さん



「みみごち」製造の様子

逆境を好機と捉え、オンリーワンの金型技術を活かした 新発想のヘルスケア商品開発で新たな事業分野を切り拓く。



松本金型株式会社

まつもと ぶんじ
代表取締役社長 **松本文治氏**

- 本社・工場 広島県東広島市志和町冠283
- 創業 1979(昭和54)年9月
- 事業内容 プラスチック金型の設計・製作、ヘルスケア商品の開発・販売
- 従業員数 25名

創業以来、主に自動車部品用のプラスチック金型を製作してきた松本金型株式会社が、自社で開発した新発想のヘルスケア商品を相次いでヒットさせ、新たな収益の柱を打ち立てている。主力事業も好調で今期過去最高収益を見込む同社の代表取締役社長松本文治氏に、新事業開拓の経緯や金型技術の可能性について聞く。

メーカーになることが 創業時からの夢

松本金型株式会社は1979年、松本社長が28歳で興した金型工場だ。技術要求の高い自動車部品用のプラスチック射出成形金型を手がけ、複雑な金型の押し出し・抜き取り方法では特許技術をもつ。同社が意外な分野でヒット商品を生み出すきっかけとなったのは、2008年日本の自動車業界をも直撃したリーマン・ショックだった。

「金型の受注が激減して経営的には厳しいが、時間や労力の余裕はある。かねてから挑戦したかった自社商品の開発をやるなら今だと。着想のヒントは“痛くない注射針”の開発で有名な岡野工業さんのポスターがたまたま目に留まり、これだ!“痛くない耳かき”を作ろうとすぐさま社員に宣言しました」。BtoBが難しければ、BtoCへ。熟練の金型職人でプレス加工にも精通する松本社長は、自前の技術で自前の商品をもつメーカーになることが創業時からの夢だったという。

売れる仕組みを学び ヒット商品に育てる

社員と共にアイデアを出し合い、試作を何度も繰り返して出来上がったオリジナル商品第1号の耳かきはヘッド部分が樹脂製で、肉眼ではわかりにくい160本のかぎ状極細ブラシと変形し易いスリット入りの2種類でワンセット。弾力性があるので耳に心地よく、使い分けでどんな耳垢もきれいに掻き出せる構造になっている。さらに収納するとペン型になる工夫も加えた自信作だったが、いざ売るとなると新たな壁に直面した。「販売店への売り込みは初めてで、どこを訪ねればいいのかもわからない。アイデア商品を扱う全国展開の小売店では知名度がないと一蹴され、途方に暮れました」と販路開拓を任された小田原進部長は苦笑する。相談に赴いた金融機関で紹介されたのが、産振構の「販売戦略塾」。そこでマーケティングの基礎を学び、さらに専門家による商品のブラッシュアップ支援を受けたことで、次第に売れる商品の仕組みが見えてきた。「ネーミングやパッケージの見直し、原価

計算から箱詰めまで手取り足取り教えていただいたおかげです。交流サロンでの発表がメディアに取り上げられると大きな反響があり、すぐに地元ドラッグストアへの大量納入が決定。店頭に並んだときは涙が出るほど嬉しかったですね。知名度を上げるという意味はこういうことかと(笑)。

特長をわかりやすく訴求する「みみごち」と商品名を変更した耳かきは、まず広島で爆発的に売れ、やがてそれが販売実績となり全国に広がった。

商品化から7年。この間ネット動画で人気のチャンネルで取り上げられるなどさらに知名度を上げ、シリーズ累計販売総数130万本超、新商品も加わった耳かき全体では200万本近く売れヒット商品となっている。

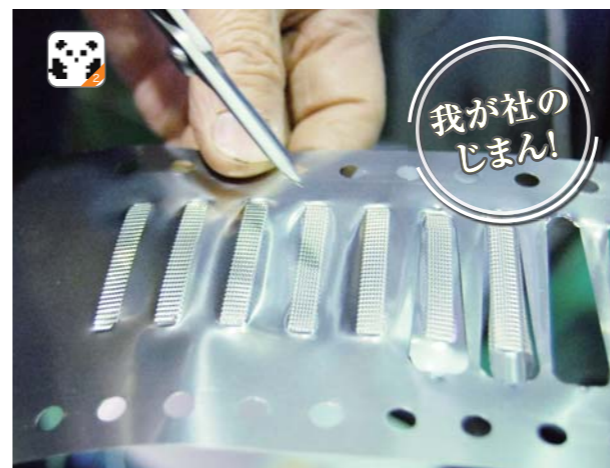
匠の金型技術で 世界に挑戦

商品開発事業では他にも、ひろしま医療関連産業支援事業費補助金を活用して広島大学と共同研究した舌ブラシ「したつつみ」や、手早く安全に爪を整えることができる「魔法のつめけずり」、歯の裏側まできれいに磨ける回転ヘッド歯ブラシ「魔法ミガキくるりん」と、これまでにない画期的なヘルスケア商品を次々と開発。構造や使い方をわかりやすく説明する動画や店舗用にミニ模型付きハンガーディスプレイ

レイまで自前で用意するなど、「とにかく一つでも多く当社の商品を広めたい」と熱意がビシビシ伝わってくる販促活動と相まって話題を集め、売り上げも好調だ。それでも商品開発事業の収益はまだ全体の1割程度。今後は実用化できそうなユニークな発想を社内外に募集して新商品開発を加速させるほか、国内だけでなく海外展開にも力を入れていく予定だという。

「チャンスがあれば何でもチャレンジするのが当社の姿勢。展示会などを通じて、商社や日本の小売店の海外店舗で取り扱いたいとの引き合いがあり、刃物の街で有名なドイツ ソーリンゲンの企業と爪削りの共同開発する話もあります。また国内では念願だったコンビニエンスストアへの展開も書籍と合体させた新しい形で年内には実現しそうです」。

近年は自動車のICT化や、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド車(PHV)等の開発が加速し、主力事業もフル稼働する中、松本社長は工場全体に目を配りながら常に新しいアイデアを模索する。「商品の構造はほぼオープンにしていますが、おそらく同じ金型業界の人でも見ただけでは作り方がわからないでしょう。当社の金型技術とプレス加工で世界一の商品を作り革命を起こしたい、いや革命は起きると本気で思っているんです」。「モノづくりは我が人生」という職人気質の松本社長の挑戦に終わりはない。



「魔法のつめけずり」製造の様子

世界一となりうる筆頭格は、この「魔法のつめけずり」

「魔法のつめけずり」は新発想の“切る”ではなく“削る”爪切り。8工程にも及ぶ独自の製法と匠の技で実現した独自の構造は、世界的なボディケアメーカーを唸らせたという。カットから仕上げまでこれ1本で早く綺麗にできるのでネイルケアはもちろん、深爪しないので高齢の方や小さなお子さんにも安心。削りかすが下に落ちず本体の中に入っていく設計も秀逸だ。

